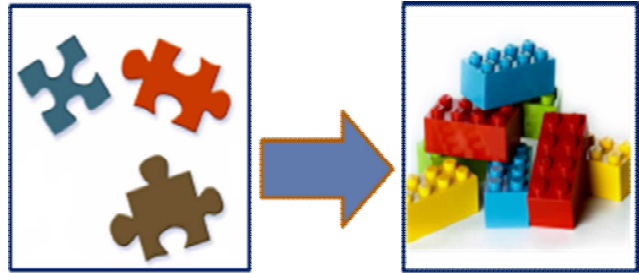


令和4年度の学力向上に向けた取り組み

(1) 「ジグソーパズル型の能力に加え、レゴブロック型の能力の育成」

社会の在り方が劇的に変わる Society5.0 時代、新型コロナウイルス感染症拡大など不透明な「予測困難な時代」が到来する中で、私たちは様々な知恵を出し合いながら「新しい生活様式」を生み出して来ました。こうした時代に求められるのは、「ジグソーパズル型の能力」に加え「レゴブロック型の能力」であります。ジグソーパズルは、一つのピースに正解の場所はたった一つであり、その正解を探すものですが、全体の図柄はあらかじめ決められており、自分で世界観をつくりだすことはできません。一方、レゴブロックは、一つ一つの部品はシンプルですが、組み合わせることで宇宙船にも家にも動物にも人の姿にもなり、町全体をつくりだすことも可能であり、言わば世界観自体をつくりだすものです。



根室の教育は大きく変わります

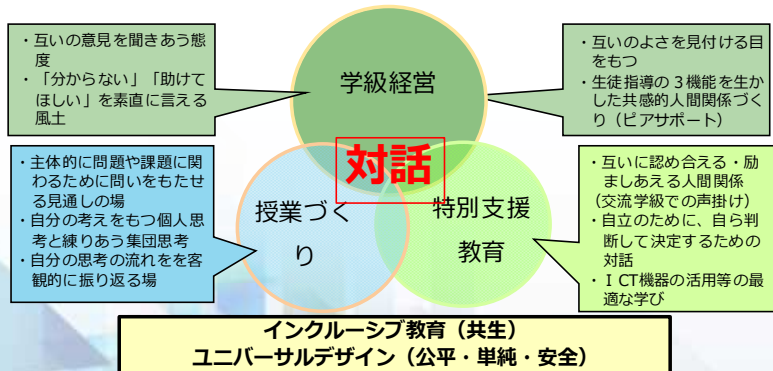
(2) 「好奇心をもって授業にのぞむ子どもの育成

～主体的な学びと質の高い対話を通して～

昨年の学力向上プロジェクトでは、「個人思考と集団思考を取り入れ、対話ができる集団に」という提言のもと、子どもたちの対話による学びの充実に取り組んできました。教師が一方的に話したり、一問一答ではなく、個人や集団で思考させる時間を取り入れました。その結果、授業時間における子どもたち同士の対話の量が増える授業改善が進みました。本年度は、対話の質を高めるため、子どもたち同士が互いを尊重し、認め合う学級経営、授業改善、特別支援教育の充実を図り、安心して主体的に学べる環境づくりに取り組めます。

主体的に学べる環境づくり

先行き不透明な状況を、一人ではなく、知恵を出し合い、対話を中心として、解決へ向かえる集団へ



「学びたい」「活かしたい」という思いが知的好奇心を揺さぶります。子どもたちが好奇心をもつことで、個人思考で解決法を探り、集団思考で共有し、必然的に対話が生まれ、質の向上が図られます。課題を解決することに対して、当事者意識をもたせるための授業を組み立て、互いに考えを出し合い、協力して問題を解決していく力が必要であると考えます。

対話の質の向上



学力向上プロジェクトでは、本年度は、中学校における招聘事業と視察研修を行い、「**好奇心をもって授業にのぞむ子どもの育成～主体的な学びと質の高い対話を通して～**」を実践するため、子どもたちが「主体的に」学びに向かい、「対話型の学び」を深めるための授業づくりを推進してまいります。

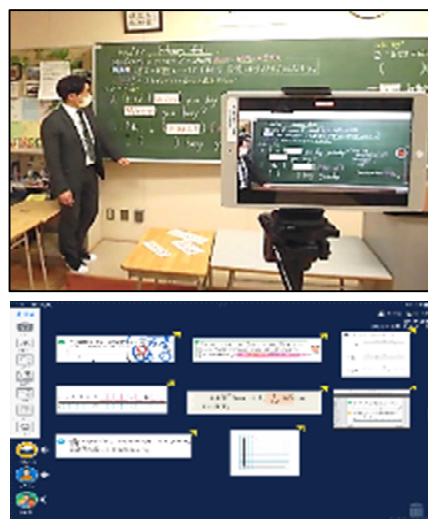
(3) 対話的な学びの土台は、互いに認め合い、尊重すること

子どもたちが対話的な学びをしていく上で、お互いの意見を認め合い、尊重して意見を交わす態度が必要です。そのため、インクルーシブ教育の理念をもとに、ピアサポートの考え方を取り入れるなど、子どもたち一人ひとりが、自分の考えをもち、それを発信してお互いに切磋琢磨しながら考えを深めていく学習活動に取り組むことが大切です。公民館事業の「ねむろ子どもピアサポート (NekoP)」もその一環であり、地域と一緒に根室の子どもたちの教育を進めてまいります。

ICT 機器を活用して生き生き授業

(4) 個別最適な学びへ

コロナ禍においても、子どもたちの学びを止めないこと、個別最適な学びを保障することにおいて、ICT機器の活用が必須であります。学校閉鎖や学年・学級閉鎖においても、ICT機器を活用して、オンラインで授業を実施しています。学習内容についても、アプリケーションを活用して先生とやり取りすることとし、個別に学習内容について、確認することができると同時に、子どもたちも必要な質問等を行うことができます。



(5) 端末活用推進チームの活用

根室市では、本年度、市内3小学校に1名ずつの教員が配置され、端末活用による深い学びの実現に向け、3週に1回ずつチームの教員が巡回しながら授業改善に取り組みます。子どもたちに身につけたい力を明確にし、そのために必要なICT機器活用のポイントを「収集・共有・蓄積・ツール・表現・整理」に分類して授業を構築するように授業ファイルを活用して取り組んでいます。学習の目標、指導すべき事柄をはっきりさせ、そのためにICT機器をどのように使っていくかを担任と推進チームが相談しながら、授業改善に取り組んでまいります。また、推進チームの作成したデータを、ICT端末を活用して、根室市内の全ての学校の先生方が閲覧できるようにし、授業改善の方向性を探れるように情報を共有しています。

授業ファイルの活用

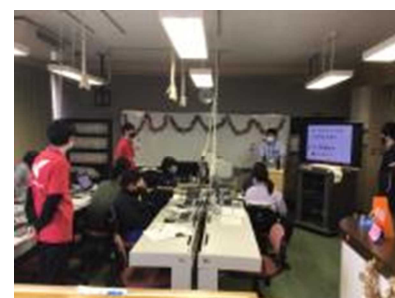
教科名 算数	P 110~111 (下) (4 / 9)	単元名 直方体と立方体 ～箱の形の持ちようを調べよう～
指導事項	B (2) ア (ウ)	
目標	立方体の特徴を捉えることができる	
活動	立方体の展開図を組み立てる	
見方・考え方	辺の長さや面のつながり、位置関係に着目	
評価	立方体の特徴を捉え、展開図を組み立てる姿を評価(観察・ロイロノート)	
ICT	収集・共有・蓄積・ツール・表現・整理	



(6) 遠隔とオンライン授業の整備と活用

ICTの強みの一つとして、距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやり取りができる(双方向性を有する)ことがあげられ、この強みをうまく生かした遠隔教育では、校内のオンラインによる全校集会や学校同士をつないだ合同授業の実施や外部人材の活用、幅広い科目開設など、教師の指導や子供たちの学習の幅を広げることができます。小規模校と近隣の学校をつなぎ、合同で授業を行うことで、多様な意見や考えに触れたり社会性を養ったりする機会が増加するなどの効果を挙げることができます。また、道外各地域とのオンラインによる交流授業を行うこともできます。本年度から、根室市と姉妹都市提携を行っている富山県黒部市の小学校と教科で、お互いの地域の素晴らしさを交流するオンライン授業を行っています。また、北海道科学大学と連携して、プログラミング学習の指導をしていただき、子どもたちの力の育成に努めてまいります。

オンラインの活用



コミュニティ・スクールがはじまります

(7) 学校運営協議会制度

本年度より、根室市内の全ての小中学校、義務教育学校校区において、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が始まります。「ふるさと根室を思い、行動する子どもを地域で育てる」ことを目指し、各運営協議会において学校と地域が「どんな子どもに育ててほしいか」を協議して、学校と地域が一体となって、持続可能な地域づくりに取り組み、将来の根室を担う子どもたちの育成を目指して、市全体でコミュニティ・スクールを展開してまいります。

令和4年度より、全ての根室市立学校において

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）がスタートします

コミュニティ・スクール（CS）とは、学校の経営方針を学校と地域が共有し、その実現に向けて、学校と地域が一体となって、将来の根室を担う子どもたちを育てる仕組みです。

学校運営協議会 どんな子供に育ててほしいか

保護の子は障害のある子どもが多いので、人を大切にしてみんなと協力する力を高めてほしいわね！

子どもたちには、授業に参画し喜びをもってもらいたいよな！

地域のよさを教えてあげれば、将来根室で働いてもらえないかな！

地域で子どもを育て、その子がまた地域で子どもを育てる。そんな地域にしたいね。

学校と地域が協力して行っていく教育活動

- ～地域体験活動～
- ～北方語学習～
- ～就業と協働した特別学習～
- ～木の読み聞かせ～
- ～水産学習～
- ～「教えて地域の先生」の節

これまで市内の学校では、保護者や地域の方々の協力もいただきながら、様々な教育活動が行われてきました。これらの取組をさらに充実させ、**将来の根室を担う子どもたちの育成**を目指し、コミュニティ・スクール（CS）を市全体で展開していきます。ご期待ください。

【問い合わせ先】 根室市教育委員会
教育総務課 〒087-8711 根室市常盤町2丁目27番地 ☎ 代表 0153-23-6111

幼保小中高の連携がはじまります

(8) 幼保小中高の連携の充実と推進

① 幼保小の連携

子どもの生活のほとんどは、「遊び」でしめられており、『遊び』そのものが『学び』であると捉えられています。遊びの中で、「気づき、考え、試す」といった探究をしながら、成長や発達にとって重要なことを学びます。小学校へ入学すると、「遊びの場」から「学びの場」へと変化するにより、落ち着きがなくなったりして学習に集中できなくなる「小1プロブレム」という環境に馴染めなくなる子どもがいます。この「小1プロブレム」を防ぐためには幼保小連携会議が中心となって、1日体験授業や1日体験入学の企画、推進を行います。幼児教育で育てたい10の姿をもとに、小学校との引継ぎを統一して行い、入学に向けての情報共有を図り、子どもたちがスムーズに小学校生活に入れるよう、スタートカリキュラムを作成しています。

1日体験入学



②小中高の連携の充実と推進

根室市内の小中学校と根室高校の連携が本格的に始まっています。もう既に、根室高校の演劇部による「ジェンダー平等」について考える演劇を「あっとほーむねむろ」のYouTubeチャンネル



に出演し、小中学生に道德の時間などで考えてもらいました。また、長期休業中の市内の中学校での高校生による学習支援、市内の小中学校での根室高校北方領土研究会による「北方領土学習」の出前授業、根室高校生による入学説明会の実施等の連携が始まっています。

特別支援教育の充実

(9) 特別支援教育の充実と推進

個々の児童・生徒の特性や障害にかかわらず共に学ぶインクルーシブ教育を進め、ニーズに応じた個別の支援により学力の向上と今後の共生社会を生きる子どもたちの育成を図ってまいります。また、5歳児相談が実施されるようになり、就学前より支援の必要な幼児への支援を始めることができるようになりました。



①接続カリキュラムの充実

新入学児童の小学校生活の円滑なスタートを図るために接続カリキュラムの充実、「子育てファイル”りんくす・ねむろ”」の活用による幼稚園・保育所と小学校の効果的な引継ぎを進めてまいります。また、幼・保・小・中それぞれの段階においても、「いままで」の学習内容をしっかりと定着させ、「これから」の学習内容を着実に積み上げていくことができるように個々の子どもたちが必要とする支援に努めていきます。

② 特別支援教育支援員（学習支援員・介助員）の拡充に努めます

学級に在籍する支援を必要とする児童生徒への教育的対応が求められていますが、教師だけでは十分な支援が困難な場合が多くあります。教員の円滑な授業をサポートしたり、早期支援を必要とする児童生徒に対し学習活動上のサポートを行ったりする特別支援員や介助業務員の拡充に努めます。



男女平等教育の推進

根室市は、『男女を問わずみんなが主役の街づくり』を掲げており、男女の性別にかかわらず、お互いのよさや感じ方を認め合い、誰もが「自分らしく」幸せに暮らしていくことができる社会の実現を目指しています。今まで、学校の名簿は男女別になっていましたが、『男女は平等』という意識をもち、お互いを尊重していくという視点から、教育活動全体を通じた男女平等教育を推進していきます。

- ①五十音順の男女混合名簿を導入します。
- ②性別にかかわらず、男女が互いの人権を尊重する意識を育みます。
- ③他者を認め尊敬する心を培い、性別にかかわらず、自分としての考え方、生き方に自信をもてるようにする。

合わせて、呼び方も「～～さん」に統一します

「～～くん」「～～ちゃん」など、呼び方も様々であったものを、男女平等に「～～さん」に統一します。

家庭・保護者・地域との連携

(1)「生活リズムチェックシート」の活用

「生活リズムチェックシート」の活用などにより、家庭と学校が連携して基本的な生活習慣の確立と学習習慣の定着を図ります。また、ゲーム機やスマートフォン利用等の子どもたちがトラブルの被害者や加害者にならないよう、ネット利用に関する家庭のルールづくり家庭のルールづくり「スイッチオフ2」も促進してまいります。



ご相談内容	ご相談窓口	受付時間
NTTドコモ (相談対象) 1151	NTTドコモ	9:00~20:00 (年中無休)
フィルタリングサービスの利用に関するお問合せ (無料)	KDDI (相談対象) 1157	
	SoftBank (相談対象) 1157	
サービスに関するご相談 (有料)	根室市青少年健全育成センター (相談対象) 24-0119 (年中無休)	月~金曜 8:45~17:30 土曜 9:00~12:00 日曜 9:00~12:00
ネット・ゲーム・SNS利用などに関する相談	根室市青少年健全育成センター (相談対象) 24-0119 (年中無休)	月~金曜 9:00~17:00

根室市青少年相談室 月~金 9:00~17:00 休み、必要などお問合せください。 詳細内容のご確認は青少年相談室まで。

根室市青少年健全育成市民会議・根室市教育委員会